

## 応用情報技術者 講評

## 【総評】

今回の午前試験は、新テーマの出題数、難易度ともに標準的だった印象です。午後試験は、定番テーマや論点が多く、過去問題演習をこなしていれば対応しやすい問題が多かった印象です。全体的な難易度は標準的ですが、マネジメント系を中心に解答しづらい設問が散見されたので、選択する問題によっては難しく感じられたのではないのでしょうか。

## 【午前】

今回の午前試験における新規テーマの出題数は、前回とほぼ同数です。ここ数回の試験では、以前と比べて新規テーマの出題数が15問前後と多めになっています。今後も15問前後は知らない用語が登場する前提で午前対策を進めるとよいのではないのでしょうか。新規テーマについては知らないと解けない問題も出題されますが、選択肢の中から明らかに誤りであるものを除外したり、語感から該当しそうな選択肢を選択したりすることで正解を選べる問題も少なくありません。今後も既存テーマについてきちんと学習しておけば、新規テーマにも対応しやすくなるでしょう。

## (主な新規テーマ)

- |            |                                |                    |
|------------|--------------------------------|--------------------|
| ・ベイズの定理    | ・量子コンピュータ                      | ・オブジェクトストレージ       |
| ・インバータ     | ・直流給電                          | ・バリューストリームマップ      |
| ・プロファイラ    | ・3Dセキュア 2.0                    | ・ドキュメントジェネレータ      |
| ・PSIRT     | ・JIS X 33002                   | ・マスカスタマイゼーション      |
| ・GHG プロトコル | ・BRM(Business Reference Model) | ・デジタルガバナンス・コード 2.0 |

既出テーマについては、今回の試験からシステム監査基準が令和5年版に変わっています。大枠に変化はありませんが、今後は監査人の倫理やガバナンスなどについても学習しておくといいかもかもしれません。データベースの分野では、午後の頻出テーマであるCOALESCE関数が午前で初めて出題されました。午前で出題されたことから、今後は「知っていて当然」という扱いになる可能性があります。午後にデータベースを選択する方だけでなく、データベースの選択予定がない方も学習しておくといいいでしょう。

全体的に既出テーマは過去問題演習を実施していれば対応可能なものがほとんどでしたが、問い方や論点を変えた問題もいくつか散見されました。例えば、2分木を巡回する問題では右の枝を優先して辿る問題が出題されたり、ナッシュ均衡の定義を問う問題が出題したりといった問題などは新規テーマと同様に難しく感じられたかもしれません。

ここ数回の試験と比べても今回の試験が難しかった印象はありません。標準的な難易度といえるでしょう。過去問題演習で定番テーマを確実に理解していたかが重要な試験だったといえそうです。

## 【午後】

午後の出題テーマは、次の通りです。

問題番号	出題分野	テーマ
問 1	情報セキュリティ	リモート環境のセキュリティ対策
問 2	経営戦略	物流業の事業計画
問 3	プログラミング	グラフのノード間の最短経路を求めるアルゴリズム
問 4	システムアーキテクチャ	CRM(Customer Relationship Management)システムの改修
問 5	ネットワーク	クラウドサービスを活用した情報提供システムの構築
問 6	データベース	人事評価システムの設計と実装
問 7	組込みシステム開発	業務用ホットコーヒーマシン
問 8	情報システム開発	ダッシュボードの設計
問 9	プロジェクトマネジメント	IoT 活用プロジェクトのマネジメント
問 10	サービスマネジメント	テレワーク環境下のサービスマネジメント
問 11	システム監査	支払管理システムの監査

必須問題である問 1 の情報セキュリティでは、リモート環境のセキュリティ対策がテーマとなっていました。自社のシステムではなくクラウドサービスのリモート環境であることが特徴的でした。ネットワークをきちんと理解していないと解答できないような問題は見当たらず、EDR や SIEM などセキュリティ対策技術について問う問題が目立ちました。要求する知識はそれほど深くないので、午前試験で出題されるような用語をきちんと理解したうえで、問題文を読み取る練習をしていれば対応は可能だったでしょう。標準的な難易度で、前回ほどは易しくはありませんが難解な印象もありません。

選択分野では、テクノロジ系を中心に出题実績のある知識や論点を問う問題が目立ちました。テクノロジ系では、問 4 で Web API と JSON 形式のデータが出题されたり、問 6 でスキーマの方式を比較させたり、問 8 でオブジェクト指向が出题されたりするなど、若干ながら設計色が強い印象を受けます。どの問題も間違えやすい問題や解答しづらい問題も含まれますが、幅広く過去問題を解いていれば 6 割以上に正解することは難しくなかったでしょう。なお、問 3 では擬似言語の記述形式が基本情報技術者試験と共通になりました。今後は、関数の宣言や変数の宣言などの記述形式が過去問題と若干異なることになるので、過去問題演習を実施する際は混乱しないよう注意が必要です。

ストラテジ系及びマネジメント系については、従来よりも「問題文のポイントを抜き出せば解答できる設問」が少なかった印象です。知識がないと解答できない問題、自分の言葉で解答することが求められる問題、何を答えたらよいかに迷う問題が普段より多く、若干の解きづらさを感じます。特に、問 9 のプロジェクトマネジメントは IoT や AI などが登場しており、事例のイメージもしづらい問題でした。知識に自信がなく問題文の読解で何とかしようと考えている受験者は、普段よりも難しく感じたかもしれません。ストラテジ系及びマネジメント系の難易度としてはやや難しめといえそうです。

全体的に出題実績のあるテーマが多かったので、どれだけ過去問題演習を実施したかが合否に大きく影響する試験だったといえそうです。

以上

この講評の著作権は TAC(株)のものであり、無断転載・転用を禁じます。

Copyrights by TAC Co.,Ltd.2024